老健 さきたまだより

No.53
2014.3

Contents

会長挨拶

老人保健施設の特色を活かし 高齢化社会を乗り切る

公益社団法人
埼玉県介護老人保健施設協会
会長　小川 郁男

会員の皆さまには日頃よりご支援ご協力いただき、お蔭さまで平成25年度事業も滞りなく終了することができました。誠にありがとうございます。

昨年夏には日本が誇る富士山が世界文化遺産に登録され、さらにオールジャパン体制で取り組んできた招致活動が実を結び、2020年の東京でのオリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しました。久々の朗報にこれまでの鬱屈した気分が払拭され日本中が沸きました。この明るいニュースが私どもの現場にも届くことを願っております。

この4月より消費税率が8％に引き上げられ、また診療報酬改定も実施されました。今回の報酬改定は「21世紀（2025年）モデル」として病院完結型から地域完結型の医療・介護の連携に前回以上の重点がおかれた改定となっています。正に2025年の「地域包括ケアシステムの構築」に向けた全力投球の姿勢が窺われます。

「老健ひろば」会長講義

1月24日に開会した通常国会で、2月12日に平成26年度の重点施策として、社会保障改革のプログラム法に沿った改革に着手し、医療法と介護保険法を改正する一括法案「地域における医療および介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律案」を閣議決定しました。国民会議の報告書とプログラム法で示された内容を具体化する法案で「地域包括ケア」の準備にあたる法改正です。「公助を減らし、自助・自立へ」が基本となっており介護保険法改正では、これまでニュース等で報道されております予防給付の地域支援事業への改正案が提出されます。

事業が移行されても既にサービスを受けている人への打ち切りではなく新規の対象者を中心にNPO・民間企業・住民ボランティアなどの資源を使って対応するとの方向です。

超高齢社会となり各地域で問題となっている課題の一つに認知症の増加があります。現在高齢者は3000万人程いますがそのうちの15％、440万人くらいが認知症であると言われています。さらに予備軍と言われている人が380万人程おり、合わせると800万人を超える人数となり、高齢者全体の3割近い数となります。こうした認知症の高齢者が住み慣れた地域で普通に生活できる社会づくりのために、認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）が昨年よりスタートしています。この施策では認知症を早期に発見して早期に治療に取り組むために初期集中支援チームが対応を図り、必要に応じて地域包括支援センターが相談を受け認知症専門医が早いうちから治療していくシステムです。このような環境を整えるには、地域での支え合い（互助）が必要となり現在400万人以上いる認知症サポーター

「老健ひろば」での取り組み

を600万人に増やす取り組みにも着手しています。

世界に類をみない高齢化社会を乗り切るためには、多職種との連携が図れ、在宅療養にも明るい老人保健施設の特色を活かすことが期待されております。

今後当県は急速なテンポで高齢化が進むことが予測されており、当協会といたしましては高齢社会の支援サービスの一端が担えるように様々な研修会を準備しておりますので皆様の参加をお待ちしております。会員のみなさまには、ご支援宜しくお願いいたします。

平成25年度「永年勤続会長表彰」受賞者

53名　五十音順（施設名）

施設名	氏名
彩の苑	江原　裕美
彩の苑	春日　敏明
いこいの家	柏木　幸子
いこいの家	金子　均
いづみケアセンター	持田 めぐみ
いづみケアセンター	近藤　由紀
岩槻ライトケア	栗原　一勝
岩槻ライトケア	田村 由美子
うらわの里	坂口 紀美子
かがやき	藤丸　京子
かがやき	岩野　茂
鶴寿の里ナーシングホーム	大武　正治
カノープス☆羽生	山本　貴一
カノープス☆羽生	石川　知史
北埼玉ヘルスケアビレッジ	茨野 登志子
きんもくせい	堺　正長
きんもくせい	永塚 志奈子
ケア・ビレッジ　シャローム	漆原　利江
ケア・ビレッジ　シャローム	小野寺 とき子
ケアステーション所沢	窪寺　真弓
ケアステーション所沢	長嶋　益子
ケアリングよしかわ	栗原　裕美
ケアリングよしかわ	畠山　恵
厚生会川口ケアセンター	管原　誠
厚生会川口ケアセンター	花山　愛子
高齢者ケアセンターゆらぎ	井上　祐子
高齢者ケアセンターゆらぎ	西山　明美

施設名	氏名
翔寿苑	高野　聖子
翔寿苑	石田　和幸
逍遥の郷	吉澤　美帆
しょうわ	熱海　雅恵
しょうわ	服部　裕
鶴ヶ島ケアホーム	佐藤 佳代子
鶴ヶ島ケアホーム	山﨑　恵子
戸田市立介護老人保健施設	永山　三恵
戸田市立介護老人保健施設	倉田　綾
虹の園	梅澤　麻里
虹の園	高木　教江
蓮田ナーシングホーム翔裕園	山崎 あかね
蓮田ナーシングホーム翔裕園	盛武　節子
はつらつ	高橋　志保
はつらつ	白倉　幸江
はなぶさ	清水　育代
はなぶさ	本間 恵美子
FOMA・なごみ	坂田　光子
ぽっかぽか	油井　純子
ぽっかぽか	松坂　町子
本庄ナーシングホーム	赤岡　亜弓
本庄ナーシングホーム	川部　理恵
みどうの杜	浅見 みゆき
みどうの杜	旭　典子
やまざくら	関口　健
やまざくら	中島　英行

敬称略

考えよう！埼玉方式

第19回埼老健大会　開催される

2月6日(木)さいたま市大宮ソニックシティで開催された第19回埼玉県介護老人保健施設大会は、県内外から550人を超える参会者と、出展協賛企業関係者150名、合計700名ほどの参加を得て盛会のうちに進められました。今回は特養や大学・専門学校の学生の参加も見られ、少しずつ広がりを見せております。

開会式では、小川会長から地域包括ケアの中心に老健があり、プロのたくさんいる老健こそ出番であるとのお話がありました。

来賓の皆さんからは大会の成功を願うお言葉がありました。

埼玉県知事代理の樋口福祉部副部長からは、高齢社会となり、住み慣れた地域、身近な地域で切れ目なくサービスが受けられるよう取り組む必要をお話しいただき、人材確保の大切さを強調、介護職員のイメージアップに尽力されるとのお話でした。

埼玉県医師会長代理の松本常任理事からは医師会でも老健職員の処遇改善の申し入れを進めていることをご紹介いただき、老健協会へのご支援を明確にしたお話をいただきました。

全老健木川田会長からは被災地からのお礼のお言葉を頂き、地域ケアシステムに取り組む気仙地域の報告がありました。また、埼玉の進める研修の数と内容の豊さに感動したとのお話と今回のテーマが的を射たものであるとのお褒めのお言葉を頂戴しました。

その後、別掲の永年勤続者53名・介護百人一首優秀作品10名への会長表彰が執り行われました。

続いて行われた基調講演は「南極観測と地球環境」と題し、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構　国立極地研究所長白石和行教授にご指導いただきました。

白石教授からはまず南極越冬隊の仕事の紹介がありました。

小川埼老健会長

樋口埼玉県福祉部副部長

松本埼玉県医師会常任理事

木川田全老健会長

謝辞を述べる永山様

司会する平川理事

大会テーマ「2025年に向けて」

永年にわたる研究の成果、気温の変化や気象の研究、隕石が多数発見できるので隕石の研究、氷に閉じ込められた空気の分析による古代からの気象の移り変わり、温暖化と海水面の上昇など大きな視点から地球を考える大切さなどを教えられました。

さらに、実際に協力体制を整えることでより良く、力を発揮できること、チーム内外での協力、連携の大切さ　チームワークとコミュニケーションの大切さが学べました。

環境問題や地球規模で物事を考える必要を知り、日常の仕事と直接関係なく新鮮だったという感想も寄せられました。

また、入り口に展示された南極の氷を間近で見、はじける音に感動した方も多くおられました。

午後は40演題の口演発表と16演題のポスター発表で日常の実践を向上させる手がかりをつかんだ方も多く、有益だったとの感想が寄せられました。２月の理事会で下記２名が優秀演題に選ばれました。

展示場では朝８時30分から午後４時まで、66社（広告のみ21社）の企業の協賛で最新の介護・医療情報を入手できました。参加者からは、日頃なかなか見る機会もなく、今回のように多数の会社が最新の色々な情報を提示していただけると勉強になるとの声が寄せられました。

来年節目の第20回大会は２月５日（木）大宮ソニックシティでの開催を予定しています。今から実践研究を深め大会の準備をお進め下さい。

基調講演される白石和行教授

優秀演題

発表演題	施設名	発表者名
薬に頼らない排便コントロール　～腸を元気に！　皆超元気！～	アーバンみらい ハートランド東大宮	須田　直也
暮らしの中の笑顔を届けて　～日々の様子を家族様に伝える事の意味～	いづみケアセンター	新井　篤大

（敬称略）

介護老人保健施設　運営上の留意事項

埼玉県福祉監査課
介護保険施設担当

1年間の実地指導等で各施設にお伝えした内容をまとめました。ご活用下さい。

人員に関する基準

1 人員配置

●常勤職員の場合、有給休暇や出張は、その期間が暦月を超えない場合は、勤務した時間に算入してください。**非常勤職員の場合は算入できません。**

●理学療法士等が、老健と通所リハビリテーションの業務を兼務している場合は、各々の勤務時間を分けて記録してください。

2 勤務体制

●夜間勤務を行う職員は年に2回、その他の職員は年に1回、健康診断を実施してください。

（研修）

●**虐待防止、身体拘束、事故防止、感染症予防**については、毎年研修を実施してください。

●老健では、事故防止及び感染症予防研修は**年間2回以上**実施してください。また、新規採用時にも必ず実施してください。

●研修は、年間計画を立て、実施記録を残してください。

運営に関する基準

1 サービス提供の記録

●提供したサービス内容をなるべく詳細に記録することが、利用者等とのトラブル防止につながります。看護・介護記録は毎日記載してください。

●夜間巡視についても、巡視した時刻が分かるように記載してください。

2 身体拘束

●「身体拘束廃止委員会」を設置するとともに、改善計画（身体拘束廃止マニュアル）を作成してください。拘束を行っていない場合であっても、急な実施に備え、委員会の設置やマニュアルの作成をお願いいたします。

●緊急やむを得ず身体拘束を行う場合には、「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」に、当面の解除に向けた取組に必要な最小限の期間を設定し、解除予定日を必ず記載してください。

●**拘束開始日までに**家族の同意を得てください。すぐに同意が得られない場合には、電話で同意を得た上で、同意日、説明者、家族の氏名を説明書に記載しておいてください。

●老健の場合は、拘束の態様、時間、利用者の心身の状況及び緊急やむを得なかった理由を、**医師が診療録に記載**してください。（更新の場合も同様）

3 施設サービス計画

●入居日前に、面接や診療情報を元に暫定プランを作成し、入居日に本人及び家族に説明・同意を得てください。

●施設サービス計画は、必ず家族の同意を得てください。すぐに同意が得られない場合には、郵送や電話等で同意を得た上で、同意

介護老人保健施設 運営上の留意事項

日、説明者、家族の氏名を記載しておいてください。

- 計画書を利用者、家族に交付する際は、第1・2表だけでなく、週間サービス計画表（第3表）又は日課計画表（第4表）も交付して下さい。（更新の場合も同様）
- 計画作成時には、サービス担当者会議を開催し、その記録を残してください。
- 定期的にモニタリング（評価）を実施し、計画の見直しを行ってください。

4 非常災害対策

- 防災訓練は年2回以上実施し、うち1回は夜間を想定した訓練を行ってください。
- 防災訓練を実施した際は、結果報告書を作成し、不参加の職員にも周知して情報共有を図ってください。
- 非常用食料や飲料水を3日分程度備蓄してください。
- 倉庫等のスプリンクラーの直下には、荷物を置かないでください。
- 防災設備点検を年2回実施してください。

5 衛生管理

- 汚物処理室やリネン室において、未使用と使用済みのオムツ、リネンが近接して置かれている事例がありました。**清潔物と不潔物は必ず区分して保管してください。**
- 害虫駆除を半年に1回以上、飲料水検査、貯水槽清掃を年1回実施してください。
- 検食は、マイナス20度以下の冷凍庫で2週間、1品50グラムを目安に保存してください。
- 厨房には清掃チェック表（毎日・週1回・月1回清掃）等を備え、衛生管理に万全を期するようお願いいたします。

6 掲示

- 入口付近の見やすい場所に、運営規程の概要、従業者の勤務体制、協力病院、利用料、苦情窓口、その他の重要事項の概要を掲示してください。

※苦情窓口は、**市町村**及び**埼玉県国民健康保険団体連合会**です。

7 苦情処理

- 苦情はサービスの質の向上を図る上での重要な情報であるとの認識に立ち、苦情や要望は報告書を作成し、申し送りや全体会議等で周知するなど、職員間での情報の共有に努めてください。

8 事故防止

- **骨折や入院以上の事故**が発生した場合には、**事故報告書・再発防止策**を市町村（保険者）・県福祉事務所へ提出してください。

※様式は、埼玉県ホームページで、「老健危機管理」で検索し、「埼玉県介護老人保健施設危機管理マニュアル」から使用してください。

- 誤嚥しやすい食品を提供する際は、看護・介護部門と食事部門で連絡を取り合い、食事形態に合わせて、カット等をした上で提供するよう努めてください。
- 急な誤嚥に備え、**食堂付近に吸引器を備えてください。**
- 入浴サービスについては、常に事故の危険性があること、たとえ短時間であっても職員が目を離すことは重大な事故につながるおそれがあることを日頃から十分認識しておいてください。
- 利用者の入浴中は**複数の職員を配置**し、**職員の見守りがなくなる時間はないか再確認**してください。
- 機械浴槽の操作方法については、担当職員がその操作方法を十分理解し、新規採用職員や経験の浅い職員に対しては、操作方法や突発事故が発生した場合の対応について研修を実施してください。
- いつでも再確認ができるよう、**浴室に機械浴槽の取扱説明書を備えてください。**

いきいき施設紹介

介護療養型老人保健施設

あさひヶ丘

〒350-1211　埼玉県日高市大字森戸新田99-1
TEL 048-989-6587　FAX 048-989-6592
多床室：115床

当施設は、平成21年４月１日、旭ヶ丘病院の医療療養型病床を転換し、介護療養型老人保健施設として開設しました。旭ヶ丘病院の２階に60床・55床の２つの一般棟フロアーを設けており、入所サービス・短期入所サービスを提供しております。

従来の介護・看護・リハビリテーションのサービスに加え、介護療養型老人保健施設の機能も兼ね備えており、看護師が多く配置されています。入院するほど病状は重くないものの医師による医学的管理や看護師による日常的な医療行為のある方の受け入れも行います。また、旭ヶ丘病院と併設しており、夜間等の緊急時には旭ヶ丘病院の医師が往診できる体制になっています。

今後も、地域に密着した施設として併設の旭ヶ丘病院、あさひヶ丘ケアプランセンター、あさひヶ丘訪問看護ステーションと連携を取り、地域の多様化するニーズに応えられるように取り組んでいきます。

介護老人保健施設

きんもくせい庄和

〒344-0111　埼玉県春日部市上金崎28
TEL 048-746-8693　FAX 048-745-1564
利用料　多床室：9.5万円～15万円前後
従来型個室：13.2万円～24万円前後
ユニット型個室：なし

忘れもしない、お年寄りを襲った極暑の残る平成24年９月、療養病床から転換して、当施設は、庄和中央病院の３階に誕生しました。定員25名と県内最小です。旧庄和町の樹＝キンモクセイを冠し、居室には梅から山茶花まで季節順に花の名前を付け、それぞれにまつわる句・歌を絵入りで飾り、雰囲気は一変。介護・看護スタッフは殆どが継続勤務となり、人員と人材に恵まれた良いスタートが切れたようです。力を入れているのはリハとレクです。利用者様には、この２つの効果は絶大です。身体抑制ゼロも達成できています。地域の多種多様な施設と連携し、一般病棟の医師と「ツー・カー」という利点も生かして、「らしさ」を醸し出してゆく所存です。よろしくお願い申し上げます。

埼老健トピックス

車イス寄贈される

２月末に５会員施設に１台ずつ埼玉県を通じ車いすの寄贈がありました。

これはさいたま市にあるトヨタレンタリース埼玉様が社会貢献として４年前から取り組んでいる事業です。「人と環境に優しい会社」を目指すトヨタレンタリース埼玉様は、高齢者施設などで活用していただく事を目的に、埼玉県を通じて車椅子の寄贈を行っています。

今年も20台の車いすをご用意いただき、そのうち５台を老健施設が頂戴しました。協会では会員期間の長い施設から順に推薦し、この度の贈呈となりました。各施設では大きな喜びを持ちこの車椅子を迎えました。ご利用者のために大きな力となる事でしょう。

介護の魅力ＰＲ隊任命式

今年度、埼玉県と老健協会をはじめとする各種団体が一緒になり、介護職員のイメージアップを図る取り組みを進めました。

５月の入職式をはじめ、コバトンハートフルメッセージ、介護職員定着のための取り組みの表彰など、様々なものがありました。

２月12日には県民健康センターで介護職員が学生・生徒に介護の仕事の魅力を伝えるＰＲ隊の任命式があり、鶴ヶ島ケアホーム佐生さん他20名の方が任命されました。

続いて老健をはじめとする事業所の表彰がありました。老健からは大宮ナーシング・ピア、いづみケアセンター、ぬくもりが優れた取り組みを進めているとして表彰されました。また介護職員の定着率が良いとされたさんとめ、ビッラ・ベッキアが表彰されました。

上田知事は「人を支える仕事は立派、素晴らしい仕事」と称賛され、「介護の世界が評価され、感謝される好循環をつくる」と意気込みを語られました。

小川会長が「各団体が力を合わせて取り組むことを誓い」閉会となりました。

全老健・埼老健共催研修会　マスター・技術研修
最先端の情報に納得

本年度、全老健として初めての試みで、埼玉、東京、大阪、福岡の４都県で全老健と各都県支部との共催研修会が開催されました。

埼玉県ではリハビリ関係職員で、老健勤務５年程度の職員を対象に10月27日（日）大宮ソニックシティを会場に開催しました。参加者は、他県から70名、県内から１３０名、合計２００名にのぼりました。

当日は午前中に全老健研修委員会委員・熊本県清雅苑副施設長野尻晋一先生の「地域リハビリに向けた生活期リハビリテーションの不易流行」・宮城県せんだんの丘施設長土井勝幸先生の「地域包括ケアシステムに求められる老健のリハビリテーションとは」の講義がありました。お二人の講義は実践に基づく具体的な取り組みが盛りだくさんで、受講生は大きな収穫を得ました。

午後は埼老健協会リハビリ職員研修会の報告の後、埼老健から内田三千則理事が進行役となり佐藤龍司理事、野尻先生、土井先生による「老健の職員はこんなところを磨いてほしい」と題したシンポジウムが開催されました。シンポジストの各先生の熱い思いと成果を上げている事例を聞き、参加者一人ひとりが自身の取り組みを変える大きな力になったとの感想が寄せられました。

これは使える！ チェック 老人保健施設

埼老健協会　理事　平川 汀子

25年以上前のことです。私は埼玉県で一番早くできた老人保健施設（以下老健施設）で働いていました。今以上に老健施設が社会から認知されていない創設期の頃で、病院からは「入所者の検査をしても保険請求できないとは何事か！」と叱られ、ご家族は在宅復帰支援よりも施設が「終の棲家にならないこと」に落胆されるのです。「自宅と病院との中間施設というより中途半端施設だろう」と揶揄されもしました。

「社会的入院」と言う言葉をご存知ですか？「治療を終えても自宅にもどれず、老人ホームにも入所できない方」が、入院生活を続けている状況を称してそう呼んでいました。

日本が超高齢社会を迎えるのは確実であり、制度も意識も大転換せねばならないと頭では承知していながら、やはりそれは「今」でなく「先のこと」という空気もただよう中で登場したのが老健施設でした。

ところが、ここにきて団塊世代が高齢者の仲間入りをし始め、いよいよ「今」がやってきました。平成12年に動き出した介護保険法は、数度にわたり手直しされていますが、27年改正を目の前にして、これまでに寄せられてきた老人保健施設への疑問にこたえながら、「使える！チェック老健」のご案内です。

Q 入所中は他の病院にかかれないのですか？

入所中は医療保険の適用がされないという意味で、病院の敷居が高くなります。画像診断や歯科治療には保険が使えるのに、他の多くの事項は自費扱いになるのです。

国が理由付けたのは「老健施設を利用するのは病状安定期の方で、病院の外来治療ですむ程度の治療レベル、また施設には医師を配置するから施設内で対応できるはず」というものです。確かに入所者の薬は、施設医が指示して施設内で準備できます。特別養護老人ホーム等の福祉施設と違って、医師やリハビリの専門職が必ず配置されているのも特徴です。しかし、一人の医師が全ての疾患に対応するのは困難でしょう。施設は病院と異なり医療設備も限られていますし、診断や治療には自ずと限界があるのはご理解いただけると思います。

先のご質問には、「老人保健施設には**他科受診の制約**※が制度上あり、基本的に施設内で病気の管理をすることが求められています」とお答えします。

一方で、老健施設を運営している法人の多くが医療法人であり、症状によって施設から病院へと迅速につなげることができるのは安心でしょう。

私たちは施設内の医療にも医療保険が使えるようにしてほしいと、国に要望を続けているところです。

※他科受診：入所者の病状から見て、介護老人保健施設では必要な医療を提供することが困難な場合は、保険医療機関の医療を受けさせる。

Q 老人保健施設は料金をはじめ、施設ごとのサービスに違いがあるように思うのですが？

皆様と個々の施設とが契約をして、サービスの提供を行うのが介護保険法のシステムです。料金の設定も各施設で行いますので一律ではありません。平成18年の制度変更では、食費や居住費が保険給付からはずされ自己負担になりました。その際に、「施設間で料金を示しあうような行為は法律にふれる」とあらかじめ注意を促されたものです。

「**関係法規を遵守した一定の範囲内での違い**」**は施設の個性**と考えてよいでしょう。

「老健施設は利用時に必要経費の見込みがたてやすく安心できる」との声が、寄せられています。「**アクセス、設備、体制、料金等の何を自分はもっとも重視したいか**」**を考えながら、利用施設を選択**なさってみては如何でしょうか。施設には必ず相談員や介護支援専門員がいます。

Q 希望しても、胃ろうなど本人の状態により利用できないことがあるときいていますが、本当ですか？

老健施設が誕生したころ、施設を必要とするのは「病状の安定期にある方、リハビリを要する方、認知症の方」を主にイメージしていました。病院からいきなり自宅に帰るのはきついだろうから、老人保健施設を真ん中にいれることで本人と家族を支援する。また、いつでも気軽に家と施設を行き来できれば…というのがその意図するところだったと理解しています。ところが現在、「酸素が常時必要」「癌末期で看取りを」「口からの食事はできない」「今まで精神科に入院していたが高齢になり施設へ移るように言われた」等々、国の政策誘導もあり、施設を必要とする方々の状態が変わってきました。

老人保健施設は、基準上夜勤に看護師を置くことが必ずしも求められてはいませんが、医療の必要性の高い方の増加ゆえ、どこでも看護師をもっと配置したいと考えています。

しかし昨今は、医療や福祉現場での人材確保もままならず、各老健施設の看護体制の事情が、胃ろうの方の受け入れ可能数に反映しているかもしれません。なお、医療の必要な方の施設療養の場として、病院を老人保健施設に転換させる施策がすすめられています。「介護療養型老健施設」と言いますが、まだ数は多くありません。

老健施設への期待

「医療・介護総合推進法案」を注視しましょう。ねらいは医療法と介護保険法を一括して改正、都道府県に基金を設けて病床機能分化や在宅医療・介護の充実を図るということです。

住み慣れた地域で、在宅から入所まで、リハビリから最後の看取りまでと、生活と医療を包括的に担える老健施設は、諸課題に真摯に向き合います。

「これは使える！」

あなたの街の老健施設にようこそ。

埼老健介護百人一首 優秀歌

しわしわの苦労した手を握りしめわたしが力になれたらと願う
秋池 美香（いづみケアセンター）

幼き日繋いでくれた優しい手感謝を込めて今私（われ）が引く
小川 陽子（いづみケアセンター）

「おまけね！」と入浴時にやさし手でそっと肩もむ笑顔のケアー
佐藤 美恵子（上福岡リハケアセンター）

音がするそのたびドキッと胸が鳴る誰かが転んでいやしないかと
根津 詩織（上福岡リハケアセンター）

喜寿過ぎて余生の趣味に墨絵かき子等に残せる思い出の軸
服部 政子（いづみケアセンター）

もういいの早く迎えに来てと言うけれど三度の食事は大盛りだ‼
堀井 園子（上福岡リハケアセンター）

枕元小さな灯と寝顔見て一息つける夜の静けさ
道 尚子（いづみケアセンター）

手を併わせ〝ありがとう〟と会釈する声無き母は失語症
宮澤 政枝（上福岡リハケアセンター）

若き頃は近寄りがたきアウトロー今はホームで風船バレー
吉田 昇（鶴ヶ島ケアホーム）

小谷あゆみ賞

「帰りたい」そっとつぶやく母がいる「うん」とうなずき手を握るのみ
和田 御射子（上福岡リハケアセンター）

（五十音順）

編集後記

二度にわたる大雪に震撼させられたこの冬、想定外、異常気象という言葉で済ますのでなく、日々の業務を営々、淡々と進めた施設に敬服。日頃の備えが生きた証でしょう。

職員の温かい思いが雪を溶かし、変わらぬ今日を繋いでいます。目の前のご利用者を家族と思い、明日へ共に生きる力強さ、この底力こそ信頼の源です。職員の思いで施設は変わる。老健は人こそ宝。

ねたきり0（ゼロ）への10か条

第1条 脳卒中と骨折予防
ねたきり ゼロへの第一歩

第2条 ねたきりは ねかせきりから作られる
過度の安静逆効果

第3条 リハビリは早期開始が効果的
始めようベッドの上から訓練を

第4条 暮らしの中のリハビリは
食事と排泄、着替えから

第5条 朝起きて、まずは着替えて身だしなみ
寝・食分けて生活にメリとハリ

第6条 「手は出し過ぎず目は離さず」が
介護の基本 自立の気持ちを大切に

第7条 ベッドから移ろう移そう車椅子
行動広げる機器の活用

第8条 手すり付け 段差をなくし 住みやすく
アイデアいかした住まいの改善

第9条 家庭でも社会でも 喜び見つけ
みんなで防ごう閉じ込もり

第10条 進んで利用 機能訓練 デイ・サービス
寝たきりなくす人の和 地域の和

埼老健

毎月15日は いい介護 老健の日
利用者の幸せサポート 埼老健

公益社団法人 **埼玉県介護老人保健施設協会**

（事務局）〒350-2213 埼玉県鶴ヶ島市脚折1877番地
介護老人保健施設 鶴ヶ島ケアホーム内

TEL. 049-285-5055（直通） FAX. 049-271-5124

直通電話ができました。ご利用下さい。

URL:http://saitamaroken.jp/ E-mail:sairoken@manjyukai.or.jp